

座学 年間スケジュール

* コースの卒業日には今後の自給自足プランについて各自発表をしていただきます。

* 昨年度の内容を記載しております。当日実施する内容は変更する可能性がありますのでご了承ください。

3 月 前半	なぜ自給自足なのか 森の生態系から自然と共にある暮らしを学び、自給自足がなぜ現代に必要なのかを根本から考えます。	
3 月 後半	持続可能な農業の3つの理 循環、多様性、多層性という自然に沿った農業の原理を学び、持続可能な方法の基盤を理解します。	
4 月 前半	化学農業と自然の森の比較 森の仕組みと対比しながら、化学農業の限界と、自然に学ぶ持続可能な農の姿を探ります。	
4 月 後半	良い土とは何か 腐植の役割を中心に、健康な土の条件や、植物と微生物が共生する土壌環境について学びます。	
5 月 前半	良い土を作る技術 土壌の循環を促す方法や、微生物の働きを活かす栄養供給など、持続可能な土づくりの基本を学習。	
5 月 後半	炭素農業 炭素を蓄える農法の実践を通じて、気候変動対策として注目される国内や国内外の炭素農業の事例を学びます。	

* コースの卒業日には今後の自給自足プランについて各自発表をしていただきます。

* 昨年度の内容を記載しております。当日実施する内容は変更する可能性がありますのでご了承ください。

6 月 前半	病虫害の原因 病虫害が発生する根本原因を理解し、農薬に頼らない自然に沿った予防と対策の視点を学びます。	
6 月 後半	化学的な農業の発祥 近代農業の歴史と化学技術の導入背景を学び、現代の農と環境問題のつながりを理解します。	
7 月 前半	虫害の対策 生態系全体のバランスに注目し、虫と共生しながら作物を守る自然農の考え方と技術を学びます。	
7 月 後半	質疑応答 家庭菜園の工夫やコンポストの方法など、実生活での自給的な実践に関する疑問に答えます。	
8 月 前半	種子にまつわる社会問題 種苗法や遺伝子組換え技術など、種子に関わる社会的・政治的課題とその影響について考察します。	
8 月 後半	種の取り方 地域や気候に合った種を残す方法を学び、持続的で自立した農の循環をつくる視点を育てます。	

* コースの卒業日には今後の自給自足プランについて各自発表をしていただきます。

* 昨年度の内容を記載しております。当日実施する内容は変更する可能性がありますのでご了承ください。

9 月 前半	鶏の解体 命をいただく行為と向き合い、解体を通じて生き物と人間の関係、命の重みを実感します。	
9 月 後半	工業的な畜産の問題点 工業型畜産がもたらす健康・環境への影響や、アニマルウェルフェアの観点から問題点を学びます。	
10 月 前半	鶏の飼い方 少量でも始められる養鶏の基本や、エサ・環境の工夫による持続可能な飼育方法を学びます。	
10 月 後半	農と社会のあり方 世界の都市農園や地域コミュニティの事例から、農が社会とどう関わるかを広く学びます。	
11 月 前半	持続可能なエネルギーと社会の在り方 太陽光やバイオマスなど、再生可能エネルギーの実例を通じて暮らしとエネルギーの関係を考えます。	
11 月 後半	持続可能な社会での経済 地域通貨やフェアトレードなど、小さな循環型経済の取り組みから、新しい経済の形を学びます。	

* コースの卒業日には今後の自給自足プランについて各自発表をしていただきます。

* 昨年度の内容を記載しております。当日実施する内容は変更する可能性がありますのでご了承ください。

12月
前半

持続可能な社会での政治・教育

持続可能な未来をつくるために必要な教育・
政治制度改革を、国内外の先進事例から学びます。



12月
後半

自給自足を実践する生活を視察する

実際に自給的生活を送る現場を訪問し、住まい・食・
エネルギーの自立の具体例を体感します。



1月
前半

食品添加物のもたらす健康被害

加工食品に含まれる添加物の健康への影響や、表示の読
み解き方、選び方の視点を学びます。



1月
後半

化学農業の問題点

化学肥料・農薬の自然環境と人の体への悪影響につい
て、具体的なデータや事例で理解を深めます。



2月
前半

お米づくりの1年の流れ

日本の風土と田んぼの関わりを学びながら、1年を通じ
た稲作の流れと農の営みを理解します。



2月
後半

まとめ

社会や自然と調和した自立的な暮らしの実現に向けて、
自分のビジョンを発表します。

